



# 関町小通信

平成28年11月1日  
練馬区立関町小学校  
学校だより 11月号

祝開校60周年 “0”からの積み重ねに思いをはせて

校長 福岡 勤

お陰様で、11月5日（土）に開校60周年記念式典・祝賀会を開催する運びとなりました。60年と一口に申しますが、卒業生台帳で確認しますと、昨年度までの卒業生はちょうど7900人で、現在、様々なところで御活躍になられております。もちろん、この「関町小通信」を御覧の保護者や地域の方の中にも、本校に在籍し、卒業された方が多数いらっしゃると思います。

戦後のベビーブームを背景として、昭和31年（1956年）の4月に石神井西小学校から分かれる形で本校は開校いたしました。開校当時は、校庭どころか、校舎もなく、教室は石神井西小学校の8教室を間借りし、「二部授業」にて授業を行っていたそうです。全ての木造校舎が現在の校地の上に完成するまでにはさらに2年間を要したことが学校沿革史や開校10周年の記念誌（1966年発行）から分かります。

十周年記念誌にこの二部授業についての記載がありましたので、本稿で原文のまま御紹介します。

- －靴がなくなっちゃった。
- －いたい、いたい。
- －押しちゃダメ、遅番の子は外で待っていなさい。

二部授業…今では懐かしい言葉になってしまいましたが、1クラス60人前後の二つの組が、一つの教室をかわりばんこに使うため、毎日の交代時の騒々しさは想像に絶するものでした。まるでラッシュの新宿駅さながらの光景が、あの狭い昇降口で繰り返されました。とろうとしても靴箱に手が届かない。落とした靴を拾おうとしゃがむとその上に誰かがのりかかってくる。雨の日ともなると、私どもの方でもお手あげになってしまう状態のことがしばしばありました。



正門横を飾る60周年を祝う横断幕

「祝」文字の左のイラストは60周年記念キャラクターとして子供たちが描いた作品の中から投票で決まった「関小ラビット」。いわゆる“ゆるキャラ”を選ばないのが、関小の子らしい。

- －オヤ、いまごろどうしたの？
  - －早番と遅番、まちがえちゃった。
  - －じゃうちへ帰ってもう少し遊んでなさい。
- きょうは12時からだよ。 （岡田正裕）

私も経験したことのない光景が、毎日のように繰り広げられていたことが分かります。1クラス、60人。ちょっと想像がつかみません。また、別の教員の文章にはこんな記述もありました。

当時の5年生は、みんなが引っ越したあとも石神井西小に二クラスだけ間借りすることになった。うるさい階段下の物置に電気コンロややかんを置いた職員室があった。給食は、関町小から毎日リヤカーで用務員さんが運んで来てくれた。冷たくなることも砂をかぶる日もあった。（菊地邦友）

周年誌を基に開校当時の歴史をひもときますと、当時の関町小の子供たちは、苦労の中にも明るく生活していたことが分かります。また「開校」という“0”からの出発にまつわる苦労話は、子供たちだけでなく「荒れ地から校庭へ」の整備などに御協力いただいた地域・保護者の方々にも頭が下がる思いで読みました。今も昔も変わらず本校の教育を支えてくださっている方々がいることに感謝しております。保護者・地域の皆様、これからも本校への御支援をよろしくお願いいたします。